

抄 二種深信

一．題意

「二種深信」とは、『観経』の深心釈によって「信楽」(他力の信心)の構造を「機の深信(信機)」と「法の深信(信法)」に開いた二種一具の法門をいう。

二．出拠 出拠は 一つで十分である。

『散善義』「深心釈」(全 1-534、七祖篇註釈版 P457)

言_二深心_一者、即是深信之心也。亦有_二二種_一。一者決定深信_二自身現是罪惡生死凡夫、曠劫已來、常没常流轉、無_レ有_二出離之縁_一。二者決定深信_下彼阿彌陀仏四十八願撰_二受衆生_一、無_レ疑無_レ慮、乘_二彼願力_一定得_中往生_上

『往生礼讃』「前序」(全 1-649、七祖篇註釈版 P654)(註)乃至の「乃」は、すなわちと読む

二者深心、即是眞實信心。信_下知自身是具_二足煩惱_一凡夫、善根薄少流_二轉三界_一、不_上出_二火宅_一。今信_丙知彌陀本弘誓願 及_下称_二名号_一下至十声一声等_上、定得_乙往生_甲、乃至_二一念_一無_レ有_二疑心_一、故名_二深心_一。(二には深心。すなはちこれ眞實の信心なり。自身はこれ煩惱を具足する凡夫、善根薄少にして三界に流轉して火宅を出でずと信知し、いま彌陀の本弘誓願は、名号を称すること下十声・一声等に至るに及ぶまで、さだめて往生を得と信知して、すなわち一念に至るまで疑心あることなし。ゆゑに深心と名づく(Ref 七祖篇 p654))

三．釈名^{しゃくみょう}：「釈名」とは、名目(教義概念)を解釈する意、教義概念規定をいう。文言の定義である。

二種深信の「二種」とは救われる衆生の「機」と救い主たる如来の願力の「法」をいう。

「深信」は善導大師が観経の「深心」を深信之心と釈されたものである。

注、『散善義』の二種深信で「一者決定」以下を「機の深信(信機)」と「二者決定」以下を「法の深信(信法)」という。

四．義相^{ぎそう}

ア)観経の「深心」は、顕彰隱密の隱彰の義では大經十八願文の「信楽」に当たるから「二種深信」とは、深心釈によって「信楽」(他力の信心)の構造を信機・信法の二種に開いたものに他ならない。

イ)「信機」とは自力ガスタリ、「信法」とは願力摂取による浄土往生に疑いがなくなることをいい、両者は紙の表裏一体の如く互いに矛盾せず二種一具の法門を構成する。

ウ)そこでこれを「捨機即託法」又は「捨自即歸他」という。

エ)「二種深信」は、本願を疑わねばお救いに与る「信疑決判」の法義に通ずる。

オ)聞信義相の「仏願の生起を聞く」「同本末を聞く」ことは其々信機と信法に当たる。

五．結び

「二種深信」は、十八願文の「信楽」を観経の深心釈により信機・信法に開いた二種一具の法門である。両者は矛盾しないからこれを「捨機即託法」又は「捨自即歸他」という。

以上